

安倍弘生先生が 宮崎大学教員教育活動表彰をいただきました!

宮崎大学教員教育活動表彰とは

平成27年から本学で制定されたもので、職務上特に顕著な業績をあげた者のうち、教育活動に優れた業績をあげた教員を各学部及び基礎教育部から1名ずつ被表彰者を決定しています。今回、医学部から「教育方法の工夫又は改善の取り組み、顕著な教育成果をあげた者」として推薦をいただきました。本来ならば、1月に本学で表彰式が行われる予定でしたが、コロナ感染拡大防止のため学長に代わり医学部長から授与していただきました。



受賞者から一言

教員教育活動表彰をうけて

臨床医学教育部門 安倍 弘生

このたびは教育活動について表彰していただき、心より光栄に存じます。選考いただいた先生方、ご推薦いただいた先生方にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

私は現在、卒前教育を中心に、模擬患者(SP)参加型の実習や標準模擬患者の育成と客観的臨床能力試験(OSCE)などの試験の運営、「行動医学」の系統講義の計画・実施、今年度からは医学科5年「医療安全・薬剤処方学」内の漢方のレクチャーなど幅広く関わらせていただいております。

OSCEに関してはOSCEの課題数増加などから、SP増員が必要となり2018年より新たに一般の方を募集し標準模擬患者の養成を行い、現在は本学で養成したSPさんのみで試験を実施できるようになっております。今後は、臨床実習後OSCE(Post-CC OSCE)の正式導入に伴い更に多くのSPさんの養成が円滑な試験実施のため急務であり、人材確保・養成をどうしていくかが課題です。

行動医学・漢方に関しては、もともと臨床で機能性消化管疾患の診療に関わる機会が多く、興味があるのですが、この領域は行動医学や漢方に親和性が高く、自分の中で臨床と医学教育が有機的につながり、やりがいをもって仕事をさせていただいております。これらを私に割り当て指導していただいている小松教授には大変感謝しております。

今回の表彰を励みに、よりよい教育環境を整えるべく一層精進してまいりたいと存じます。

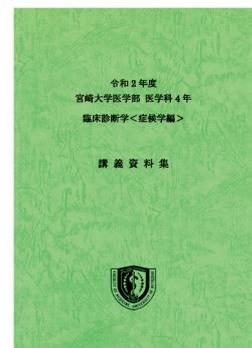


「医療人育成推進センター」へ名称がリニューアルします!

2021年4月から、医療人育成支援センターは「医療人育成推進センター」へと名称が変更となります。2015年10月のセンター発足以来、卒前・卒業一貫教育体制の充実に向けて、教務委員会とともに臨床実習や共用試験を始めとする医学教育カリキュラムの改革や臨床研修から新専門医制度へのキャリア接続環境の整備を行ってきました。また、2017年からは宮崎県地域医療支援機構の宮崎大学分室をセンター内に設置し、県と連携して地域枠入学学生のキャリア形成にも関わらようになってきました。これらの活動が一定の評価を受け、今後は本学の医学教育を「支援」からより力強く「推進」していくようにとの期待を込めて、今回の名称変更が承認されました。大学からの期待と使命を胸に、医療人育成推進センタースタッフ一丸となって精進してまいりますので、今後ともご協力とご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

「臨床診断学<症候学編>講義資料集」を作成しました!

毎年、医療人育成推進センターが監修役を務め、医学科4年生の共用試験前に臨床診断学(診察実習編と症候学講義編)を実施しております。今回、令和2年度に実施した症候学講義の総論(臨床推論法、検査の特性、小児症候学)と各論(医学教育モデル・コア・カリキュラムの37症候を20講義分に再編)の計23講義資料を編集し、242頁のオールカラー版として冊子化しました。各症候に精通している講師の先生方(23名)の資料は大変分かりやすく、臨床実習や医師国家試験の学習まで役立つ内容となっています。この資料集は実際に講義を受けた4年生や各診療科に配布予定としています。



第8回日本シミュレーション医療教育学会学術大会

臨床医学教育部 遠藤 穰治

COVID-19感染拡大防止のためシミュレーションセンターを用いた各種イベントや全職員BLS講習会は開催を控えておりましたが、スタッフはこれまでの成果を論文あるいは学会発表の形で全国に報告しました。

「シームレスな多職種連携教育のためのシミュレーション～Society 5.0における医療者教育の探求～」という大会テーマの下に令和2年10月24日(土)に大阪で行われた第8回日本シミュレーション医療教育学会学術大会において「手術室での多職種協力型急変対応シミュレーションは日常業務にも反映するか?」という演題で学会発表を行いました。

手術室で手術状況を再現し、局麻下手術終了後に患者急変が生じるシチュエーションに対する対応をチーム実習で行った際、ビデオ記録から各手技に要した時間、スタッフの対応、記録の取り方を比較したところ、いずれも指導後に迅速かつ確な対応に変わっていました。実習後のチームでの即時振り返りおよび観察者(上級看護師・教育スタッフ・救急医)の助言を評価表およびアンケートで比較したところ、日常的に使用する物品を用いた手術室での再現性の高い状況設定により机上訓練のみでは感じ得ないリアリティのもと行えた実習の満足度は高いものでした。

会場では教育担当医師、看護学科教員、麻酔科医、臨床工学士等からの質疑応答や活発な意見交換が行われ、特に急変時対応の実習が日常業務への意義づけに繋がった点は高く評価されました。

第52回日本医学教育学会大会

令和2年7月17日(金)・18日(土)に鹿児島大学医学部で開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大を受け、鹿児島市での学術集会は中止となり、誌上発表と学会ホームページでの公開(Web開催)という開催形式で行われました。

シンポジウム(口頭:Web)

小松 弘幸 S13-3 地方大学におけるSP養成の問題と対策 「OSCE時代のSP(模擬患者) 参加型医学教育の問題点とその対策」

一般演題(誌上発表)

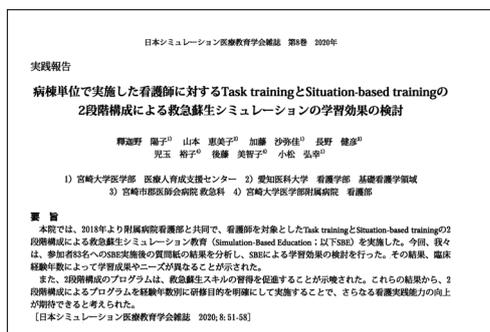
- 小松 弘幸 「指導医講習会における”My ミニカリキュラム”作成の試み」
- 安倍 弘生 「臨床実習での模擬患者の体験がPost-CC OSCE標準模擬患者に与える影響についての検討」
- 遠藤 穰治 「手術室における多職種協力型の急変時対応シミュレーションの経験」
「部門単位の急変時対応シミュレーションにおける教育スタッフ支援の有効性～5か月の検討」
- 加藤沙弥佳 「看護基礎教育と臨床教育の連携における静脈血採血演習の教育効果に関する報告」

論文紹介

日本シミュレーション医療教育学会誌

日本シミュレーション医療教育学会誌Vol.8に、釋迦野陽子先生(現:宮崎市田野病院副看護師長)の論文「病棟単位で実施した看護師に対するTask trainingとSituation-based trainingの2段階構成による救急蘇生シミュレーションの学習効果の検討」が掲載されました。

2018年から本センターと看護部とで実施した救急蘇生シミュレーション研修をまとめたものです。別刷をご希望の方は、医療人育成推進センターまでご連絡下さい。



シミュレータ紹介

～関節鏡シミュレータ(ARTHRO Mento)が復活しました～

整形外科でしか使うことはないと思いますが、耐用年数はとうに過ぎ、メーカーにも修理不能と言われて眠っていた関節鏡シミュレータが再度使えるようになりました。不具合はPC側の問題だったため解決することができ、〇〇万円の機材が有効に使えるようになりました。整形外科の先生方、ぜひ使ってください。学生でもシミュレータなら手術体験できます。興味があれば声をかけてください。(船元)



コロナ禍でのシミュレーション教育活動のご紹介

ECMO net講習会

令和2年10月17日(土)、臨床技術トレーニングセンターにおいて、日本COVID-19対策ECMO net主催のECMOセミナーが開催されました。インストラクター10名による指導の下、宮崎大学を含む県内5医療機関から、医師16名、看護師12名、臨床工学技士8名、合わせて36名が受講し、理論の座学、VR体験を含む実技シミュレーション、実機を用いたシナリオベースの実践的シミュレーションが行われました。当日は約20名の見学者もいました。セミナー開催翌週には当院で実際のCOVID-19患者に対するECMO治療が始まり、非常に意義のあるコースとなりました。(集中治療部/谷口、遠藤)



呼吸器若手セミナー

令和2年11月14日(土)、臨床技術トレーニングセンターにおいて、『第6回 医学生・研修医のための呼吸器診療ABC』を開催しました。午前は抗菌薬選択やレントゲンクイズ、吸入デバイス実演、血ガスクイズなどを含めた6つのミニレクチャー、午後は気管内挿管、気管支鏡、胸腔ドレーン挿入、聴診実習などの実技演習を行いました。当日は研修医、医学生あわせて16名が参加し、大変盛況でした。

今回は新型コロナウイルス感染拡大という状況の中で、開催を見合わせるか、非常に判断が困難でした。医療人育成推進センターのスタッフの方と、「新型コロナウイルス感染症予防ガイドライン」に則り、会場レイアウトや参加者の流れを含めて、綿密な事前打ち合わせを行うことで、無事開催することができました。コロナ禍のなかで医学教育の場を確保することができて、大変良かったと思います。(呼吸器内科/柳)



JMECC講習会

令和2年12月5日(土)、JMECC(ジェイメック:日本内科学会認定内科救急・ICLS講習会) in 宮崎大学(第10回)を開催しました。当大学臨床技術トレーニングセンターにおいて、通常は間仕切りをしてブース分けし、その中でシミュレータを用いた救急蘇生指導や座学講義を行うのですが、今回は実技指導のみをセンターで(間仕切りをせず広いスペースを確保して)行い、座学講義は別部屋を使用して行いました。2つのエリアとも定期的な換気はもちろんのこと、入室前の手指消毒、シミュレータ同士の適切な間隔の確保、こまめなアルコール拭き上げなど徹底しました。受講者・指導者とも日本内科学会が作成した「体調管理チェックシート」とセンター仕様の「利用者ヘルスチェックリスト」へあらかじめ記入し提出していただき、当日の検温、マスク着用、私語の自粛などお願いしました。幸い講習会前後に至るまで、問題なく進行了ました。(宮内)



出張BLS講習会(くすの木保育園)

当学職員宿舍敷地内のくすの木保育園にて出張BLS講習を行いました。当センターからは小松・遠藤の2名がインストラクターとして、令和3年2月12日(金)に幼児編、3月5日(金)に乳児編を2日で施行しました。保育業務の合間に実施し密を避けるため、各回とも前後半の分散実施とし、4名あるいは5名ずつの職員に乳幼児のBLS指導をしました。講習を行う事で施設特有の問題点も一部洗い出される形となり、講習内容とは別の意味でも有意義なコースとなりました。(遠藤)



採血演習(看護学科)

令和3年3月3日(水)、総合教育研究棟4階基礎看護学実習室にて、看護学科4年生を対象とした採血演習を行いました。今年度はCOVID-19の影響から、例年とは異なり日程を半年ほど遅らせ希望者のみ実施することとなりました。卒業間近の実施ということもあり、参加者からは「実際の場を想定して緊張感を持って演習に取り組めた」、「不安を理解しながら指導看護師に関わってもらえ、就職に向けて自信に繋がった」といった、臨床の場をより意識した感想が聞かれました。(加藤)



クリニカル・クラークシップ(臨床実習)I・II

令和2年10月26日(火)から、クリニカル・クラークシップI(医学科4年後期~5年前期)、II(医学科5年後期~6年前期)がスタートしました。

臨床技術トレーニングセンターでは、当日の検温チェックやマスク・手袋の着用を徹底し、十分なスペース確保と換気を行いながらシミュレータを用いた教育を各診療科で行っていただいております。



縫合



静脈路確保



静脈採血

現在シミュレータを用いて行っている実習項目

【外科】腹腔鏡、直腸鏡

【消化器内科】消化器内視鏡

【肝臓内科・救急科】腹部エコー

【泌尿器科】導尿

【整形外科】縫合

【麻酔科】静脈路確保、気管挿管

【精神科】静脈採血

学年リーダーとのミーティング

令和2年12月22日(火)に地域枠・地域特別枠学年リーダーとのミーティングを行いました。今回は、県地域医療支援機構医師の中村豪先生をはじめ、分室長の小松弘幸、分室医師の黒木純、地域医療・総合診療医学講座の吉村学先生、キャリアデザインサポート委員長の澤口朗先生、県医療薬務課と各学年リーダー9名が参加し、年間スケジュールや個別面談の実施状況、キャリア形成プログラムの今年度の変更点、6年生のキャリア形成プログラム適用同意及び進路状況などについて、学年リーダーの方々と活発な意見交換ができました。



地域枠・地域特別枠・地域貢献枠 全体ミーティング

夏に開催予定していた今年度の地域枠・地域特別枠・地域貢献枠全体ミーティングが新型コロナウイルス感染の影響のため延期になっていましたが、関係各所のご協力もあり、令和3年2月22日(月)に宮崎大学医学部内にて開催しました。キャリア形成プログラムの進行状況などについて不安に思っていた方は、少しは不安が解消できたでしょうか。また、片岡医学部長、宮崎県医師会常任理事金丸先生をはじめとする先生方や県医療薬務課の方々など多数の関係者にご参加いただき、学生の皆さんは周りからの期待もひしひしと感じたことと思います。今回まではキャリア形成プログラムについての概要説明、質疑応答を中心に行いましたが、今後は皆さんがこのプログラムの中で、どのようなキャリアを積んでいくかといった内容をディスカッションするなど、双方向性のミーティングにしていきたいと考えています。不安なこと、聞きたいことがあれば、適宜個別面談にも対応しますので、いつでもご相談ください。



「宮崎県キャリア形成プログラム」の 説明動画作成

毎年8月に開催している「宮崎から医師を目指そう!フォーラム」ですが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響で対面での開催は中止となりました。そこで今回はwebを活用し、宮崎大学医学部を受験する方を主な対象とした、高校生向けの特設コーナーを宮崎県地域医療支援機構HP内に設け、キャリア形成プログラムの説明動画を作成し周知しました。

この動画は、高校生向けに作成しましたが、内容に関しては医学科生にも対応していますので、是非ご覧ください。



宮崎県キャリア形成プログラムについて興味のある方は、
「みやざきで医師を目指す高校生の皆さんへ」
(<https://www.med.pref.miyazaki.lg.jp/forstudent/>)
から閲覧できますので、是非ご覧ください。

宮崎県地域医療支援機構広報誌 「KATERU」14号について

～KATERU取材～(地域枠・地域特別枠学生特集)

宮崎県地域医療支援機構では、みやざきの地域医療の今を伝えるために、機構の日々の活動等を掲載すると共に、年1回広報誌を発行しております。今回、分室医師の黒木がインタビューアーとなり、本学医学部地域枠・地域特別枠の代表5名と「医師を目指したきっかけ」や「地域枠・地域特別枠で受験した理由」、「キャンパスライフ」などについて対談しました。



詳しい内容は、同機構ウェブサイト
(<https://www.med.pref.miyazaki.lg.jp>)をご覧ください。

医療人育成推進センターホームページ

<http://www.med.miyazaki-u.ac.jp/home/iryoujin/>

医療人育成推進センターFacebook

<https://ja-jp.facebook.com/iryoujinikusei/>



《HP》



《facebook》

宮崎大学医学部医療人育成推進センター

〒889-1692 宮崎市清武町木原5200番地

TEL:0985-85-8305 FAX:0985-85-7239 E-mail:ikyoutu@med.miyazaki-u.ac.jp